

【ポスター発表】

**相談援助実習における教員・指導者・実習生3者共有の視点による指導の研究
—実習記録に焦点をあてて—**

○ 城西国際大学 清水 正美 (2394)

小川 智子 (城西国際大学・5659)

キーワード：社会福祉士養成教育、実習指導体制、実習記録

1. 研究目的

社会福祉士及び介護福祉士法制定から20年後の2007年に法改正が行われ、福祉ニーズの多様化に対応できるよう実践力のある社会福祉士養成が目指され、教育内容についても再編成されることになった。特に実習に関しては、福祉系大学にも実習指導体制の基準が明示された。このようにして始まった法改正後の実習指導体制の中で、具体的な指導内容については様々な困難が見られる。特に実習記録については法改正前から課題として指摘されてきたが、具体的な書き方については、実習担当教員（以下、教員）、実習指導者（以下、指導者）の指導に委ねてきた。この指導は、実習生を混乱させ、記録の不備が実習評価にも大きく影響される要因となった。しかし、法改正後の実習指導体制の観点から考えると、この課題は教育現場と実践現場との指導に関する連携不足の問題であり、双方で指導内容を協議し、さらに実習生の視点も含めた3者で共有しながら取り組むことが必要ではないかと考えた。そこで本研究では、教員と指導者による実習記録に必要な指導の視点と達成項目を協議し、その成果を実習生に示し、3者で指導の視点を共有し、活用できるような指導表を作成することを目的とする。

2. 研究の視点および方法

1) 研究の視点

実習指導に関して3者で指導内容を共有するために、指導の評価に関する文献を精査した。ルーブリック評価のように、留意すべき項目ごとに指導内容を明確化し、到達度を段階的に示すことが有効であると考えた。そこで、マトリックスを作成した。

縦軸には実習記録に関する留意項目として「1. 字数・形式」、「2. 時系列の実習記録(表面)」「3. 振り返りと考察(裏面)」を設定した。実習記録の表面の中にはさらに、「2-1. 本日の目標」、「2-2. 一日の取り組みの記入欄」を追加した。横軸には記録で求められる項目として「指導の視点」、「押さえておくべき基本事項」、「実習生として身につける事項」、「専門職として身につける事項」を設定した。

2) 研究方法

実習指導に関する研究会を開催し、教員と指導者との間で記録の指導に関する視点を共有した。教員4名、指導者8名が2グループに分かれ、事前に用意していた教育現場側のマトリックスと実践現場側のマトリックスを検討し、さらに詳しい項目についてKJ法を援用しながら協議した。その結果を1枚にまとめ、実習を終了した学生37名を対象にマトリックスに関する自由記述のアンケートを実施し、分析を行い、3者の共有の視点によるマトリックスを作成した。

3. 倫理的配慮

本研究は日本社会福祉学会が定める「研究倫理指針」遵守し、協力いただいた教員、指導者、実習生には匿名性の説明と了解を得ている。

4. 研究結果

まず第1に教員と指導者での協議の結果として、以下の成果が示された。

「1. 字数・形式」では、「指導の視点」として「何のために記録を記入するのか目的を考える」、「対外的な記録として適切な形式で記載されているか」が挙げられた。

「2. 時系列の実習記録(表面)」の「2-1. 本日の目標」では、「指導の視点」として、「社会福祉を学ぶ学生として自分の課題が持っているのか確認を行う」、「実習計画や進捗状況とのバランスを考えながら設定する」が挙げられた。

「2-2. 一日の取り組みの記入欄」の「指導の視点」として、「実習の一日の流れを記録し、留意点を記録しているか」が挙げられた。

「3. 振り返りと考察(裏面)」では「指導の視点」として、「体験したこと全てを記載するのではなく、その日の目標と関連させ印象に残った2つ程度を抽出し記録する」、「小さな変化を大切に、疑問に感じた背景などを記録する」、「観察記録に加え自身の実践を記録する」、「自らの行動、その行動の意図を記録する」「行動後の対象者や環境の変化を記録する」の5点が挙げられた。

また、それぞれの指導の視点において、「押さえておくべき基本事項」、「実習生として身につける事項」が挙げられた。しかし、「専門職として身につける事項」については挙げる事が出来なかった。

次に、実習生のアンケート結果からは、「記録に関する実習指導を通して、人に見せられる文章になっているのか」、「実習を通じて目標達成のためにどのように取り組んだのかなどを意識して書いていること」が確認できた。また、今回作成したマトリックスの活用のあり方については、「実習前に提示されていれば書き方の具体的な指標となったのではないのか」など肯定的な捉え方があったが、一方で、「マトリックスに頼り過ぎて自身の書く力や視点が伸びないのではないか」などの疑問も示された。

5. 考察

教員と指導者とでマトリックスを作成したことを通して、教員と指導者それぞれの指導の取り組みを共有することができ、指導で感じている難しさを言語化することで、指導の視点について理解を深めることができた。「専門職として身につける事項」に関しては、実習期間中では十分に達成することが難しいことが指摘されたが、今後さらなる検討が必要である。

また、実習生のアンケート結果からは、記録作成を通じて、公文書の取り扱い方と専門職が共有する記録への意識が醸成されていることが把握できた。マトリックスを活用した指導に関しては、活用のメリット、デメリットの両面が指摘され、今後の活用への課題が残った。最後に、本研究では実習記録に関する指導内容を示すことはできたが、到達度に関して段階を明確に示すことができなかった。今後はマトリックスを実際に指導で活用しながら、3者で検討を続けていきたい。